

# RPJ News

2024年7月号

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行

発行責任者：志井田美幸 / 長野敏宏 / 仁木守

E-mail [ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp](mailto:ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp)

## 内容

### \* 情報共有セミナー詳細報告(3)

#### ○ 株式会社つがるねっと

青森県弘前市 貴田岡 武

### \* 情報共有セミナー詳細報告(3)

#### ○ 株式会社つがるねっと

青森県弘前市 貴田岡 武

みなさんこんにちは。「株式会社つがるねっと」は青森県弘前市にあります。少子化の折、弘前市も人口減少が進んでおり、令和元年度までは17万人ほどいた人口が現在16万人(令和6年6月時点15万9899人)ほどまで減りビックリしております。

少し古いデータですが、高齢化率は32%で精神科病院が4病院、精神科クリニックが6施設あります。現在の法改正で就労継続支援A型は15以上、B型は25以上の組織がありますが、A型の4組織が廃業しました。

我々の組織は平成29年に立ち上げたので、今年やっと7年目になったところです。現在A型が7名、B型が15~16名の方が利用されています。

スタッフ構成は・サービス管理責任者・職業指導員・生活支援員・目標工賃達成指導員となっており、OTが私を含めて3名、介護福祉士が2名、他が2名で、業務を進めています。

作業内容はA型とB型は分かれていて、利用者の特徴に配慮し色々なことをやっています。

## 青森県弘前市

- ・弘前市
- ・青森県の西部に位置する市
- ・弘前藩の城下町として発展してきた
- ・人口 161614人(2023年12月時点)
- ・\*2018年 172550人
- ・高齢化率 32%(2020年)
- ・精神科病院 4病院
- ・精神科クリニック 6施設
- ・就労継続支援A型 15以上
- ・就労継続支援B型 25以上



## 就労継続支援施設の立ち上げ

- ・平成29年9月に「株式会社つがるねっと」立ち上げ

- ・就労継続支援A型 定員20名  
はたらき方研究所りんごの種  
調理作業・掃除作業・外部作業・内職
- ・就労継続支援B型 定員10名  
つながり芸術館バナナの樹  
コーヒー販売・内職・外部作業・売店・芸術



## つがるねっと のA型・B型作 業内容

- ・A型りんごの種
- ・グループホームの清掃業
- ・グループホーム利用者の食事提供
- ・内職作業
- ・農福連携作業
- ・ホテルの清掃業
- ・B型バナナの樹
- ・コーヒー作業
- ・伝統工芸作業
- ・外部作業(喫茶・清掃)
- ・農福連携作業
- ・ハグワーク

就労継続支援 A 型には施設外作業と施設内作業が有ります。施設外作業の多くは清掃業務と農福連携作業になります。また施設内作業は調理作業と内職です。

内職の 1 つに有名店の駅弁の蓋の加工をするという作業が有ります。全国に委託先が有るようですが、薄い木の板が支給されますので、節など使えない部分を削除したり汚れを取ったりして、指定された大きさに揃え、蓋に加工していく作業です。写真は上段 2 番目になります。

あと弘前はりんごが取れるところですので、農福連携でりんご作業が有り、これが 3 番目の写真です。隣の写真は委託作業のグループホームのお風呂を掃除しているところですが、他にはグループホームの食事の提供などを仕事にしています。

このような仕事をこなして、何とか 7 名の工賃が賄えるよう頑張っています。

B 型の方は「津軽お化け珈琲」というオリジナルブランドのドリップコーヒー作りを行っていて、毎月新作が出て、7年で 90 種類の絵柄が揃いました。

このドリップコーヒーのイラストは障がいのある方が描いてくれていて、今日も出がけに電話を頂いたのですが、「来週早々に新しい絵柄を持って行きます」という事でした。初期はパソコンで調べて描いていましたが、最近は外に出て足で調べることも多くなったとのことで良かったと思います。

そして地元の若手ねぶた絵師支援を行っている(イラストを若手絵師に描いてもらい、売り上げの一部をねぶた団体に寄付)「弘前ねぶた珈琲」も好評です。

コーヒーの製作工程では、コーヒー豆の選別、豆を砕く、袋詰めする、シーラーで閉じる、袋の印刷をするなど利用者みんなで行っています。

コーヒー作りは作業分担がしやすい作業で、当日の利用者の体調などに合わせて組換えが自由にできます。

我々は働きやすい環境を考えると収益性は他の事業所には劣るのかと思います。しかしどの様に作業を進めるかは皆さんと何をやりたいかを話し合い、考えて動こうという事を実践しています。

みんなが集団の中で仲間と働く意義を感じて作業されています。

## 就労継続支援A型:りんごの種の仕事

- 施設外作業
    - グループホーム清掃(階段・共有スペース・喫煙室・風呂)
    - ホテル作業(ユニットバス・トイレの清掃、部屋の掃除機、タオルたたみ)
    - 農福連携作業(りんご作りに関わる作業)
  - 施設内作業
    - 調理作業(グループホームの昼食、晩御飯の請け負)
    - 内職作業(崎陽軒のシューマイ弁当の蓋の加工)
- 基本、利用者に合わせた作業を行います。A型の利用者7名どの作業もできるようになりました。



## 伝統工芸×アート×福祉



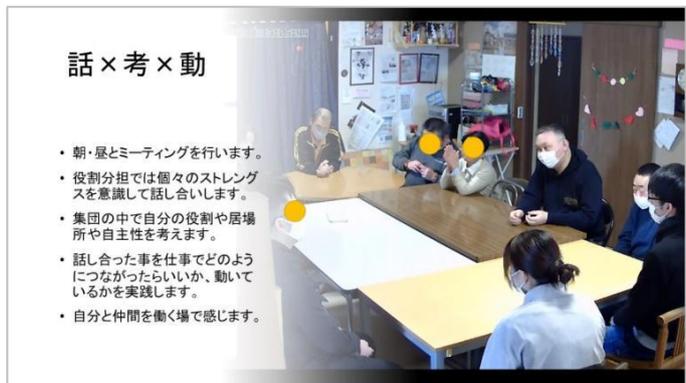
ねぶた若手絵師支援



コーヒーを何年かやっていますと色々な依頼が飛び込んできます。上の方はダウン症の家族の方が彼の描いた絵をコーヒーにしたいという依頼で、風景画は若年性認知症の団体の方が、彼らの作品でオリジナルコーヒーを作りたいという依頼で企画しコーヒーになりました。彼らの作品とコラボしコーヒーにすることで、作品が生活に必要なものとなり、たくさんの方々に届けることができました。

弘前には伝統工芸（ねぶた・津軽塗など）があります「ねぶた」はコーヒーに、津軽塗はオリジナルの作品を職人さんとコラボしながら作っています。津軽塗は完成までにおおよそ2ヶ月位かかる塗り物の作業です。研ぐことで模様が出てきて、同じ模様は1つありません。

あとは近隣の清掃作業や喫茶店の皿洗いなども行っております。



### 話×考×動

- 朝・昼とミーティングを行います。
- 役割分担では個々のストレングスを意識して話し合います。
- 集団の中で自分の役割や居場所や自主性を考えます。
- 話し合った事を仕事でどのようにつながったらいいか、動いているかを実践します。
- 自分と仲間を働く場で感じます。



### 強み×強みのコラボ

ダウン症の方や発達障害のある方や若年性認知症の方々の作品をコーヒーでリサイクルしてつづがかり生活の中で必要な物として提供いたします。



## 伝統工芸×福祉 津軽塗り作品

農福連携は、弘前市農政課が行っている事業で、当事業所で市の受注窓口を行い農政課さんとモデル事業を作っているところです。

弘前と言えば「りんご」が有名なので、「りんご」の作業を中心に請け負います。去年は20農家さんと契約して、そこに障がい福祉の幾つかの事業所が対応しています。助成金は雇い主である農家さんに障がい者を雇って掛かった費用の2/3が補助されています。



### 農×福 農福連携作業

- 弘前市農政課のモデル事業で行われている「りんご」の仕事の請負です。
- 弘前市役所内で就労継続支援B型のアンテナショップとして行っている「ハグワーク」に、2021年から農福連携共同受注窓口を設置し事務局を行っている。

### 農福連携

就労支援事業所 つがるねっと



### 農業と福祉

Agriculture & Welfare

大地の力を私たちの手で

Writer / Takashi Kitano

自然の恵みに感謝され、長い時間をかけて農家が収穫した果物。しかし、収穫は収穫の喜びとやりがいを持って、再び育てている農家に再び届けていきたい。大地の力を引き出して、人の心を繋ぎ、農業を守り育てつづける事が私たちの使命だと感じています。できることから一歩ずつ。

date / 2023.9.14

この取り組みは今年で3年目になりますが次の課題が出てきており、障害福祉事業所だけでは、農家さんの要望に応えきれない状況になりつつあります。

たくさん課題も出てきていますが、「農福連携」を知ってもらおうと、つがるねっとでは毎月ポスターを作っています。利用者の笑顔を意識した物や、連携のアイデアを載せた物など、1枚の紙で表しています。農政課さんや農家さんや県の担当部署に持っていき視覚的に活動をアピールしております。嬉しい対応として、ご覧になった方が配ってくれる場合もあります。

教育と福祉も次世代育成という観点から、弘前大学などで実習や講義という形で参加させて頂いています。

またこれらの情報は Instagram や Facebook など情報発信を続けております。

最後になりましたが、今年は新規事業でミニトマト作りにチャレンジしています。弘前市から少し離れた西目屋村というところですが、トマト農家さんが高齢化で廃業されたところを使わせて頂いて始めました。今 1200 本のミニトマトと格闘しています。

うまくいったら農業を中心とした町づくりを 10 年計画で考えて行ければと思っています。

有り難うございました。



### 一編集後記一

青森からの報告、丁寧に丁寧に基盤をつくりながら、「精神」の枠、「福祉」の枠の中にこもらず、さらに地域に貢献していくことを常に考え、具体的に次々と行動している様子に感銘を受けています。一時、社会への拡がりをととも意識された活動が全面にたった時期がありましたが、あくまで個人的な感触ですが、若干狭義の福祉・事業でとどまっているような傾向を感じています。みなさん、社会の中で生きているはず。常に点検し続けていたいと考えました。

総合支援法ができて時が経ち、大きくとらえると次のフェーズにいかねばならない時期にきているように思います。

何をを目指すのか、これまでの延長でいいのか、自問自答も続いています。(長野)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会

